

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	複業による経済的自立の促進と地域への貢献
事業名(副) <small>※任意</small>	感染拡大時において持続可能な働き方の普及

入力数 主 20 字 副 20 字

実行団体名	かねいビル愛好会
資金分配団体名	公益財団法人東近江三方よし基金

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_8.働きがいも経済成長も
_17.パートナーシップで目標を達成しよう

実施時期	2021年5月 ~ 2022年2月	事業対象地域	<input type="checkbox"/> 全国 <input checked="" type="checkbox"/> 特定地域 (滋賀県東近江市)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	感染症拡大により居場所を失った若年層、近隣地域を生活拠点とする者、及び当事業に興味を持つ市外の者	事業対象者人数	11人(実質上限なし)
------	-------------------	--------	---	---------------------------------------	--	---------	-------------

I.団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
昨今のパンデミックを受け我々の働き方は大きく変化した。在宅勤務がもはやニューノーマルとなった一方で、その副作用として孤独感やモチベーションの維持などの問題が生まれた。こういった問題を解決しつつ、オンラインワークから半歩進んだ新しい働き方を若い世代を対象に提案する。個人で仕事をしながらも他者との繋がり「何か」を創造する新しい働く形、「複業」を提案、普及することを目的とする。
(2)申請団体の概要・事業内容等
「店舗ではないが集客のある場所」を作ること、様々な分野の小さな起業機会を生む。 Honmachi93はそのきっかけを提供しているが、かねいビルはよりパンデミックに向き合った複合施設にする。アトリエや個人事務所、予約制の半解放空間など、完全なる店舗ではないため常に在店する必要がなく複業がしやすい。多様性を求めた生き方を提案する場所かつ、これからの時代に添う仕事のあり方を実現できる場所の提供を行う。

入力数 (1) 189 字 (2) 199 字

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
令和という新しい時代を迎えて早々、我々は巨大な不安と共に過ごすことを余儀なくされた。それは例外なく全ての者、全ての事に影響した。その渦中で前進した者、後退した者が間違いなく存在し、多くの業種において後者が多数である。その社会的損失は緊急事態宣言が発令された都市部のみにとどまらず、各地方にも大きく影響し今尚続いている。新型コロナウイルス感染症による関連倒産は、判明している国内のみの数だけでも2021年4月現在1250件を超える(※1)。上位順に見ると、飲食業、建設業、ホテル、旅館を含む観光業、アパレル小売業と、我々の生活に何かしら関連のある業種ばかりである。これが示すのは、ごく身近に倒産企業や失業者があるということである。そこから二次的に様々な問題が派生することは容易に想像できる。日本国としての対応を俯瞰的に見ると、個人より企業への支援を積極的に行っているが、それは働く場所である企業が倒産してしまうことで、個人を継続的に守ることができなくなるためだと考えられる。そうした中、まだ予断は許さないものの、ワクチンの登場で徐々に局面が好転していくことが予想される。しかし、ここで我々が忘れてはならないことの一つに、「アフターコロナ」と共に「ウィズパンデミック」に備えるということが挙げられる。新たなパンデミックへの想定は必要である。有事における行政の支援は貴重なものだが、そこだけに頼って生きていくことはできない。仕事においては一つの収入源に依存した場合、そこが途絶えてしまうと生活することが厳しくなることは明らかである。今後はそういったリスクの分散と同時的に、 <u>更なる経済的自立を促す行動が各個人に求められる</u> 。我々の目的である「複業」の理念は、その第一歩となると確信している。また、この取組みを通じ <u>地域の経済発展をコミュニティ単位で実践していきたい</u> と考える。(※1 帝国データバンク調べ)

入力数 797 字

III.事業内容

(1)事業の概要
<p>社会課題：感染症拡大時における働き方、及びパンデミック発生による失業者の増加。 /課題に対する活動：一つの収入源に頼らない働き方の提案、小さな起業機会を生むための場所の提供。</p> <p>/活動の詳細：八日市駅近くに現存するアパート（現かねい荘をかねいビルとしてリノベーション）を1棟全て使用し、アトリエや事務所、予約制店舗とした各部屋の利用者を募集する。 /課題に対する貢献：感染拡大が起こる中でも対策を講じた上で適度に人と繋がり、活動を止めることなく事業を継続できる。また、複業の普及に努めることで、パンデミック発生に関連した失業が起きたとしても、過度のQOL低下を防ぐ効果が期待できる。</p>

入力数 294 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
<p>全11部屋それら全ての部屋をプロジェクトオーナー（以下PO）で満室にすることが第一目標である。各部屋のPOは各々の事業を実施しつつ、共有部分の改装、企画運営などに携わる。</p> <p>第二目標として、「かねいビル」のプラットフォームとしてのブランディングの実行と継続。</p> <p>第三目標として、POが発展途上であってもその活動を「かねいビル」として発信、支援し協働できる環境を作っていく。</p> <p>なお、全ては同時に遂行する。</p>

入力数 200 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
①かねいビルの復活 ②部屋の稼働率100%・複業の実行率100% ③情報の発信	①共有部分改装工事の終了 ②部屋の稼働率100%・複業の実行率100% ③フライヤーやウェブサイトの制作	①共有部分改装の有無 ②部屋の稼働率・複業の実行率の確認 ③制作の有無	①利用検討者が興味を持つ空間設計 ②11部屋（空室0）・複業の実行率100% ③制作された状態かつ情報が更新されていること	①2021年8月 ②2021年8月 ③2021年8月以降随時

(4)活動	時期
<p>①かねいビル改装工事</p> <p>まず、廊下、階段、トイレなどの共有部分の改装工事を行う。建物こそ堅牢であるものの、現状は廃れており不気味な空間であることから、共有部分を美しく再生し、入居の実現へと結ぶ空間を提供する必要がある。</p> <p>多様な入居者を募りたいことから、突出的な、或いは流行的な個性は出さず、普遍的であり洗練された価値を目指して再生させる。</p> <p>また、共有部分は外から見えるため、かねいビルの前を通行する人に廃れたアパートが新しく変化していく過程を見せる。</p> <p>基本的な改装はメンバーによって行うが、<u>エアコンの設置、階段、トイレの改装工事は業者へ発注するものとする。</u></p>	2021年6月～
<p>②各部屋の改装</p> <p>共有部分がある程度再生させた段階で各部屋の改装に入る。</p> <p>現状は各部屋も汚れているため、これを清掃、改善し回復を図ると同時に、利用予定者の入居を開始し改装を協働で行う。</p> <p>その後、各々の仕事場作りに着手し実働を開始する。</p>	2021年8月～
<p>③かねいビルのブランド構築・情報発信</p> <p>入居者が集まった時点で、各々の活動の企画、かねいビル全体としての企画の検討を始め情報を発信する段階に入る。</p> <p>かねいビルとしてのブランディング、方向性やビジョンを全入居者参加型で考え実践を行う。</p>	2021年10月～

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<p>メンバーは3名 北浦耀司：本事業の代表。全体の運営方向を決める。</p> <p>本部千佳：独自のネットワークを活かして、かねいビルの利用者を募る。</p> <p>市田竜也：かねいビルのブランディング、発信を担当。</p>
(2)他団体との連携体制	<p>Honmachi93=honmachi93には10人以上の人が関わり全体を運営している。また店舗も「ちいさな喫茶店」「kitaura-handmade leather-」「Uhhwee!!」「延命ランド」「shisha cafe humo」「ginmicoffee」「sunlight walks」「nameless」と多数入ってる。店舗店主が多く集まっているので、それだけ各ネットワークも広く深く、多様な人と繋がることができる。honmachi93ではそのネットワークも活かし、イベント企画から発信集客、店舗作りをしている。</p> <p>honmachi93のこのネットワークやノウハウはかねいビルで活かしていくことで、かねいビルを早く確実に発展させることができる。またかねいビルの直接的入居者もHonmachi93のネットワークからを見つけることを十分可能だと確信している。</p>
(3)想定されるリスクと管理体制	<p>本事業：部屋の稼働率の低迷が想定される。しかし、施設の全11部屋は3階で構成されており、各階をメンバー1人づつが担当することから、全体での発信力は強く、空室状態は続かないものとする。</p> <p>感染症：各POの顧客で密になることを想定し、予約での対応や、オンラインでの対応等を取りながらリスクを回避する。また施設設備として、パーティションや空気清浄機などを導入し、かつ換気の徹底など適切な対応を図る（かねいビル感染症対策マニュアルを作成する）。</p> <p>メンバーやPOによる多数でのミーティングなどにおいては、屋上などを有効に利用し感染リスクを回避する。</p>

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
<p>代表者の北浦はHonmachi93というシェアスペースを運営している。ここはかねいビルとは違い店舗であり、完全な対面での営業となっている。6年ほど前に事業を始めたが、当初は2～3部屋、現在では5～6部屋があり、<u>入れ替わりはあるものの空室になることはない。入居者の全てが本業ではなく、副業、もしくは複業というスタイルで経営しており、「IV事業実施体制 他団体の連携体制」でも述べているように様々な方面にネットワークを持つ。今では各店舗がそのネットワークや特徴を活かして協働し、集客はもちろん、全体の店作り、イベント企画を行っている。</u>それをこうした「副業・複業を実践する人たちが集まって場所をつくる」というスタイルは、大きな需要があると確信している。Honmachi93ではカネイビルが目指すような働き方を実践している人がほとんどであり、このノウハウをカネイビル全体、そして入居者と共有し活用していくことができる。そして今、ウィズコロナの時代となり、リモートワークや手探りで小商いを始める人が周囲に現れだし、「店舗」ではない「仕事場」が求められているのではないかと感じている。<u>孤独な環境や、仕事場として整えにくい自宅でリモートワークや小商いであるからこそ、他者との繋がりを求め仕事ができる環境がますます必要になってくる。Honmachi93の運営を通じた経験とネットワークを活かして、新たな若手の新たな活動の場所を作っていきたい。</u></p>				